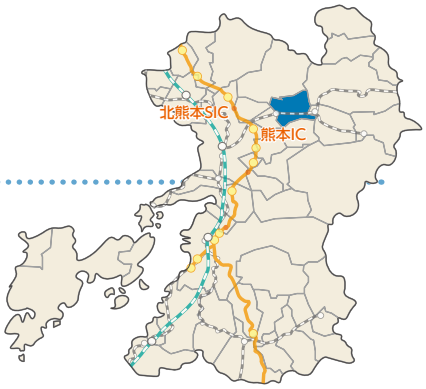
大津町（オオヅマチ）

金田 英樹 町長

大津町は熊本市と阿蘇の中間に位置しています。
熊本地震により大きな被害を受けましたが、全国からの温かい支援により復興も進み、子育て世帯を中心に人口増加を続けています。
「誰もが世界で一番住みたいまち」を目指す本町には、困難な状況にある子ども達の支援の場として県内初の「子ども第三の居場所」が立地し、更に県内町村唯一の「パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。
多様性を認め合える社会は誰にとっても優しい社会です。今後も優しさで溢れるまちづくり、そして社会実現に取り組んでいきます。

寄付御礼

- 贈呈式開催（首長出席、寄付額100万円以上）
- 感謝状贈呈
- 地公体広報誌掲載
- ＨＰ掲載
- 視察受入
- 功労者表彰推薦
- 紺綬褒章推薦（寄付額1,000万円以上）
- その他（施設への企業名入り銘板設置等）



人口

総人口……34,911人
男……17,241人
女……17,670人
世帯数…14,219世帯

面積

総面積……99.10km²
農用地……21.96km²（22.2%）
森　林……45.81km²（46.2%）
宅　地……9.36km²（9.4%）

産業構造

第1次産業……2,969（2.1%）
第2次産業…60,799（43.3%）
第3次産業…76,697（54.6%）
生産総額：百万円

人口構成比

15歳未満……17.0%
15～64歳……60.5%
65歳以上……22.5%

教育機関

小学校……7校
中学校……2校
高等学校・高専……2校
大学・専門学校他…—
支援学校……1校

高等教育機関

熊本県立大津高等学校（普通科）
熊本県立翔陽高等学校（総合学科）

交通アクセス

■大津町役場まで
九州自動車道 熊本ICから……約12km
益城熊本空港ICから……約15km
JR 肥後大津駅から……約250m

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2期大津町総合戦略の基本目標

〈SDGs〉関連するゴール

基本目標1 「おおづ」で働くを支える

新たな製品開発への支援や農業の6次産業化などにより、魅力的なしごとの創出に取り組み、働きたい人が働き続けられる環境を目指します。

基本目標2 「おおづ」での結婚・出産・子育てを叶える

本町での結婚、妊娠・出産、育児の希望を叶えるため、切れ目のない支援と「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた最適な環境づくりに取り組みます。

基本目標3 「おおづ」を住みやすいまちにする

幅広い世代が地域の中で支えあうために不可欠なコミュニティづくりへの支援や、安心・安全な生活のための地域機能強化により、住み続けたいまちを目指します。

基本目標4 「おおづ」に新しい人のつながりを創る

町の魅力ある資源を磨き、効果的な情報発信を行うことで、大津町に関わり、応援したいと思う人々の獲得に取り組みます。

▶▶▶ 大津町

自治体の重点事項

インクルーシブな社会づくりに向けた みんなの公園プロジェクト

分類 その他（子育て支援）

総事業費 100,000千円　寄附目標額　50,000千円
計画期間 地域再生計画の認定の日…2022年5月～2025年3月
数値目標 ●設置遊具数 …… 5基

〈SDGs〉関連するゴール

3 すべての人に健康と福祉を　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを　17 パートナーシップで目標を達成しよう

インクルーシブ公園づくり

みんなが笑顔で遊べる公園を

インクルーシブ公園とは、障がいのある・なしにかかわらず、あらゆる子どもが安全に遊べる遊具や配慮のある、文字どおり「みんな」が一緒に遊べる公園のことです。

障がいなどのスペシャルニーズのある子を持つ親は、「注目されるのでは」「迷惑と思われるんじゃないか」と不安になり、外出をためらうことで、孤独な子育てに陥りやすい傾向にあります。そんな親子にとって、こうした公園があれば、安心して外出でき、社会とつながる一歩にもなります。

人はそれぞれ違っていて、一人ひとり得意なこと、苦手なこと、興味のあることは異なります。「みんな」が一緒に遊べる公園は、互いの違いや共通点を認め合いながらともに成長できる場にもなります。

インクルーシブな社会とは、誰にとっても生きやすい社会です。「これから生きていく子どもたちの社会をより良く変えていきたい」というのが大津町の願いです。

誰もが「一緒に楽しく」遊べる公園をインクルーシブな社会づくりの拠点・起点として、熊本、そして九州の真ん中に位置する大津町から、インクルーシブの輪を皆様と共に全国へ広げたいと思っています。

自治体の重点事項

次世代型子育て支援プロジェクト

分類 その他（子育て支援）

総事業費 200,000千円　寄附目標額　20,000千円
計画期間 地域再生計画の認定の日…2022年5月～2025年3月
数値目標 ●児童福祉・子育て支援の満足度 …… +4%

〈SDGs〉関連するゴール

3 すべての人に健康と福祉を　11 住み続けられるまちづくりを

次世代型子育て支援拠点の設立

子育てをもっと楽しいものにするために

核家族化が進む現代では、子育て中の親が誰にも相談できずに悩みを抱え、予期せぬ大きな問題に発展してしまうことが少なくありません。子育てに関する不安だけでなく、一人では解決できない悩みを抱えてしまった時の拠り所をつくり、地域で子育てを応援することが必要です。

これまでも大津町では、子育て中の親子をサポートするためのさまざまな支援の場を設けてきました。子育て支援センターや児童館では子育てイベントで親子と地域の交流を図り、親子が気軽に交流の場を広げることができ、子育てカフェでは経験豊富な子育ての先輩がやさしく話を聞いてくれます。また、子育て世代包括支援センターでは妊娠、出産、子育てに関する様々な相談を受け付け、その内容によって専門家など関係機関と連携し、切れ目のない支援に取り組んでいます。

一方、財政面の課題から全国的に市町村立の保育所は減少傾向にありますが、本町ではこれまで以上に子育て支援を充実させるための拠点として、障がい等のスペシャルニーズを持つ多様な子どもたちを預かることができ、また、入園児以外の親も安心して相談できる機能を併せ持った「次世代型の町立認定こども園」の設立を計画しています。

大津町では、まちの未来を担うすべての子どもたちの健やかな成長をサポートする場所をつくり、町中に強力なサポーターを増やすことで、子育てをもっとラクで楽しいものにすることを目指しています。

課題 1 「おおづ」の生活機能を高めたい

中心部の街並み

訪れたい、住み続けたいと思えるようなまちをつくる。そのためには、地域の特性に応じた都市機能や日常生活サービス機能の向上が大きなポイントとなります。

本町では、町中部の人口増加地域と町周辺部の過疎地域との格差が広がり、地域によって交通や医療、商業など生活に欠かせないサービスの不足が課題となっています。中心市街地から周辺地域へにぎわいを波及させるための取り組みにあわせ、公共交通ネットワークの充実、防災機能強化、地域コミュニティの維持・強化に取り組みます。

課題 2 「おおづ」の魅力を伸ばしたい

住みやすいまち、住み続けたいまちであるためには、まちの魅力向上に取り組まなくてはなりません。本町では、「観光」「文化」「スポーツ・健康」それぞれの分野で、町の文化や自然、地域資源を最大限に活かしながら、新たな観光ルートの開発、町内に数多くある歴史的資源を生かした街並み整備、充実した機能を持つスポーツ施設を活かした大会・合宿誘致などにこれまで以上に取り組む必要があります。また、本町が特に力を入れてきたスポーツを町民の健康づくりに活かし、充実した魅力ある生活を支援します。

スポーツの森・大津

課題 3 「おおづ」に住みたいに応えたい

美しい田園風景

町の人口は増加傾向にありますが、全国的な人口減や少子高齢化により、今後はこれまでのような人口流入は期待しづらくなりつつあります。

本町は阿蘇の玄関口として緑豊かな田園都市であり、また、熊本市に近く子育て世帯に好適な居住環境と生活利便性を有し、さらには空港へのアクセスの利便性や、機能が充実したスポーツ施設など、地方生活を希望する人にとって魅力的な資源を数多く有しています。それらを移住希望者へ積極的に情報発信し、人口流入を持続していきます。

課題 4 「おおづ」とのつながりを広げたい

町境への世界的半導体企業の進出や、今後予定される空港・鉄道・道路などの交通環境整備により、人やしごとの流れが大きく変わることが予想されます。本町の特産品や取り組みを知っていただき、興味を持っていただくこの機会を活かさない手はありません。

農山村生活、日本の伝統的な武道・文化体験、サイクリングやフットパスなどの展開に加え、祭りやイベント情報を積極的に発信し、訪問者だけでなく、町内に新しく移住した人にも参加・体験してもらうことで、新たなつながりの輪を広げています。

大津の玄関口、JR肥後大津駅

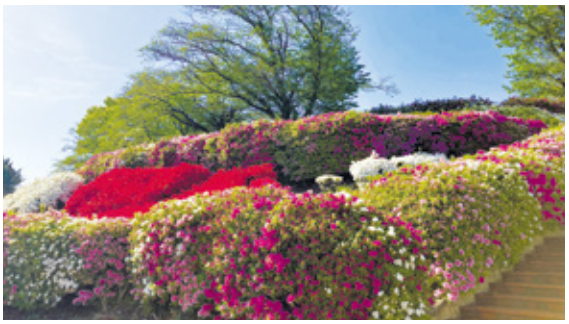
課題 5 「おおづ」での出産・子育てを支えたい

町子育て・健診センター

本町が実施したアンケート調査では、既婚者の現実的な予定子ども数が2.36人であり、全国的にみても高い傾向にありますが、理想とする子ども数は2.72人であり、希望数に達していないことが分かりました。このギャップを埋め、出産・子育ての希望を叶えることが、将来の人口目標達成につながります。若い世代、子育て世代が安心して出産・子育てができるよう、経済的支援や子育てサービスの充実、地域で支え合う子育ての環境整備などに取り組みます。

課題 6 「おおづ」で働きと暮らしの両立を叶えたい

結婚・出産・子育てを叶えるためには、働きと暮らしの両立が課題となります。男性も女性もすべての人が仕事と生活（出産・子育て・介護・地域活動等）の両立が図れるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識改革のための啓発や環境整備を推進します。また、本町では女性労働率が熊本県内の平均を下回っています。これは他自治体に比べ子育て世帯が多いことが要因であると考えられます。子育てしながらも社会に積極的に進出できるよう、女性活躍の推進に取り組みます。


町花つつじの名所「昭和園」

課題 7 「おおづ」の産業成長を応援したい

特産品のあまーい「からいも」

本町はこれまで、製造業を中心とした企業誘致の推進により、人口増加につなげてきました。その結果、町の産業別就業人口も製造業が最も多くなっています。現在のコロナ禍によりライフスタイルが変化している中で、町の将来の人口目標を達成するためには、これからの社会に対応した新たな雇用を生み出していくことが重要です。そのために、多種多様な企業の誘致や、企業間連携の推進、新ビジネスの創出支援などにより、町内産業の活性化に取り組みます。

課題 8 「おおづ」で働く人を育てたい

本町では、全体的に人口が増加しているものの、20～24歳代の世代が相対的に少ない状況です。これは町内に住む若者が進学や就職を契機に町外や県外へ転出することが大きく影響しています。本町に住む若者世代が、将来地元で働けるよう、地元企業への就職支援や、農業分野などにおける担い手の確保と働きやすい環境整備に取り組みます。また、若者だけでなく、女性、高齢者、障がい者、外国人など多様な担い手や、多様なニーズに合わせた就職を支援し、町外からも働き手が集まる町を目指します。

県立高校での企業ガイダンス